

授業科目(ナンバリング)	児童福祉論 (DA103)			担当教員	妻 孝承		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
児童福祉論は、子ども家庭福祉の基礎的な知識を学ぶことにより、福祉的な視点から子どもと社会を理解すると同時に、展開科目の履修へとつなげていくための学科専門科目（基幹科目）である。子どもの育ちの担い手である家庭、学校、地域社会について知り、支援機関と制度や子ども・女性、障がい者支援を含めて、広い視野から子ども家庭福祉を理解できる第一歩を踏み出すことを目標とする。							①②④⑤⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	子ども家庭の生活実態と福祉ニーズ、これらに関わる福祉制度及び機関の概要について理解できる。				復習小テスト 定期試験	10% 35%	
情報収集、分析力	子ども家庭の福祉のニーズの実態について情報を収集し、対応方法を説明できる。				課題レポート 定期試験	10% 15%	
コミュニケーション力	子ども家庭が抱える問題と対応方法について、グループで討議できる。				授業への参加態度	5%	
多様性理解力	多様な環境（障がい児、多文化家族など）に置かれている児童やその家庭を理解し、支援方法について説明することができる。				課題レポート 定期試験	15% 10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
定期試験（60%）は、児童福祉に関する専門的な知識と情報分析を確認する（持ち込み不可；再試験を受ける場合は、必ず事前に教員に相談すること）。小テスト（10%）では、授業中学習した用語・概念の理解度を確認し、授業中解説を行う。課題レポート（25%）は、児童福祉に関する多様な情報を収集し、今後の児童福祉のあり方について考察することを求める。その内容については、授業中に説明し、必要に応じて、授業内でフィードバックを行う。なお、不適切な授業態度（教科書を持参しない、遅刻、私語、携帯電話等の使用、居眠り等）は、発覚した場合に減点の対象となる。							
授 業 の 概 要							
子どもと家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢・ニーズ、子どもの権利、児童家庭福祉制度について理解できる。また、制度が未整備である場合は、社会資源の開発の視点を持つことができる。基本的には講義形式で授業を進めるが、必要に応じてグループワークを行う。授業は、配布レジュメに沿って進み、DVD 視聴や外部講師による講義が行う場合もある。この授業における予習復習は、授業中に明確に示すので、欠席した場合は、その内容について確認を行う必要がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：山縣 文治（2018）「子ども家庭福祉論」ミネルヴァ 参考書：適宜紹介する。 指定図書：「新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度」最新版、中央法規							
授業外における学修及び学生に期待すること							
新聞やインターネットを通して、子どもが生活する社会に目を向け、関心をもって授業に参加してほしい。また、子どもの問題を自分の生活課題として考えるものの見方や、考え方を持つように努力してほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	子どもの定義と少子化	オリエンテーションを行い、日本における少子化の進行と状況について学ぶ。	予習:教科書第3章を読む。復習:子どもの育つ環境をまとめる。
2	子ども家庭を取り巻く社会情勢および社会問題①	子どもの育つ環境における福祉ニーズについて、虐待、障がい、DV、青少年育成等から知る。また、いじめ問題、少年犯罪、家庭の育児機能の低下、児童育成と保護者の関係などについて学ぶ。	予習:教科書第2章を読む。復習:子ども家庭のニーズをまとめる。
3	子ども家庭を取り巻く社会情勢および社会問題②	子どもの貧困についてその現状と対応について学び、ニーズのとらえ方について知る	予習:教科書13章を読む。復習:振り返りシートを提出する。
4	子ども家庭を取り巻く社会情勢および社会問題③	1~3回まで学んだ子ども家庭を取り巻く社会情勢および社会問題に対する対策について、グループワークを通して考える。	予習:教科書を読む。復習:振り返りシートを提出する。
5	子どもの命と権利	子どもが生まれるプロセスを間接的に体験し、命の大切さ、権利について理解する。(ゲストスピーカー・実務家)	予習:教科書第3章を読む。復習:講義を振り返る。
6	児童の定義と児童の権利に関する条約	各法律における児童の定義について学び、児童の権利に関する条約と歴史的な変化について学ぶ。	予習:教科書第3章をまとめる。復習:振り返りシートを提出する。
7	社会的養護①	社会的養護の対象子どもとその過程について理解し、日本における社会的養護の内容について学ぶ。	予習:教科書10章を読む。復習:振り返りシートを提出する。
8	社会的養護②と里親制度	社会的養護についてまとめ、里親の制度について学ぶ。また、小テスト行う。	予習:教科書10章を読む。復習:振り返りシートを提出する。
9	児童福祉法①	法の目的と制度に係る財源、サービスの最近の動向を理解する。また、児童福祉法の関連施設種類と入所の流れについて学ぶ。また、国・市町村・都道府県・家庭裁判所の役割を理解する。	予習:教科書25頁から29頁を読む。復習:振り返りシートを提出する。
10	児童相談所の役割と実際	児童相談所の組織体系、児童相談所と市町村の連携、児童相談所の活動と実際について理解し、子どもの措置と一時保護の妥当な判断について考える。	予習:ポートフォリオにアップしている資料を読む。復習:児童相談所の役割と実際について復習する。
11	児童福祉法②	子ども分離について、DVDをみて自分の考えを整理し、専門職の役割を整理する。	予習:ポートフォリオにアップしている資料を読む。復習:振り返りシートを提出する。
12	児童福祉の関連法律①	児童虐待防止法の目的、児童虐待の定義、虐待予防の取り組み、虐待発見時の対応を理解する。	予習:教科書11章を読む。復習:児童虐待の対応方法を考える。
13	児童福祉の関連法律②	DV法の目的、DVの定義、家庭内暴力発見時の対応などについて理解する。	予習:ポートフォリオにアップしている資料を読む。復習:振り返りシートを提出する。
14	児童福祉の関連法律③	母子及び寡婦福祉法・母子保健法の各法の目的、制度の内容・財源、サービスの最近の動向について理解する。父子家庭についても理解する。	予習:一人親の諸問題について調べる。復習:ひとり親家庭の支援策を考える。
15	児童福祉の関連法律④ まとめ	児童手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当などの各法の目的、制度の内容・財源、サービスの最近の動向について理解する。	予習:子ども手当の種類と居住している市町村の取り組みを調べる。復習:障がい児の支援、子ども関係各種手当
16	定期試験		